

新緑の候いよいよ「令和」に変わりますが、新たな時代はAI時代と呼ばれるように、科学の発達によりあらゆる分野でますますコンピューターによる自動化が加速するのは間違いないでしょう。個人的にはいささか不安な気も致しますが…しかし、この科学が発達した現在でも、がん治療にはまだまだ対応しきれていない状況があるのではないのでしょうか。

先日、新聞で目にした記事です。「ステージ4がん患者座談会」という見出しで医師からステージ4を告知された3人の患者さんが、その後どのような気持ちで現在まで過ごしてこられたのかを語り合っておられました。その記事の、49歳女性渡辺さん(大腸がん・多発リンパ節転移)は、告知の時、「予感はしていたが取り乱した。何が悲しいのかはわからないけど、泣いて泣いて。事実を受け入れているじぶんがいる半面、心がついていかなかった。」その後、「最初は申し訳ないと感じた。世話をしてもらわなければいけないと思ったから。でも、人との別れも含め、がんは死ぬまでに

準備する時間がある。おぼれかけると仲間が支えてくれた。治療と副作用のつらさと向き合い、一つ一つ大丈夫を重ねてきた」現在、「ステージ4といわれて丸3年。その時言われた余命2年半を目標にしてきたが、それを過ぎたら踏ん切りがついた。「生き切った」と。私が経験したことを、必要としている人たちに届けたいという思いが強くなった」そして、「死について考えることは、どう生きるかを考えること。そういう姿勢でみんなが死を語れるようになれば。恐れて避けてしまっただけではない」

私と同じ年齢の、渡辺さんの言葉は、生まれたものは必ず死んでゆかなければならないと知りながら、今の自分にとって死はまだ関係ないことと思ひ込み、生きることのみにとらわれがちな生活を送っているものに対して、いのちとはどういうものなのかを、今一度見つめ直すよう促されているように思えます。中でも「生き切った」という言葉に、深い意味を感じました。本来なら直接ご本人にお伺いしてからの話でしょうが、恐縮ながら勝手に解釈させ

ていただくと、彼女が今まで思っていた死ということの考えが、覆され何かこれまでとは違った価値観が「生き切った」と思えた後から生じているのではないかと思いました。

さて、仏教には「生死を超越する」という言葉がありますがそれは「悟りに至る」という最終目的をあらわします。悟りとは、煩悩が消え苦しみがすべてなくなることを意味しており、当然生死による苦しみもありません。先程の渡辺さんの言葉の中に「死について考えることは、どう生きるかを考えること」という言葉がありました。そこには生と死を同じ問題でとらえることの重要性が伝わります。お釈迦様が、最初に教えてくださったのも生死は思いどおりにならないという意味で、全く同じ苦しみであるということでした。そこには、生きるのがすべてで、死んだらおしまいといった現代に多い考えは存在しません。時代が令和になろうとも、仏教の説く「生死を超越する道」は不滅です。浄土真宗は阿弥陀仏の慈悲にその答えを聞いてゆきます。

南無阿弥陀仏

写経と法話会 妙蓮寺本堂にて

5月9日(木) 14時～

写経は『仏説阿弥陀経』を少しずつ進めています。(テキスト代 864円税込)
法話会では『正信偈』を少しずつあじわっていきます。

2019年度 総会・懇親会

6月9日(日) 14時～

2018年度会計報告・2019年度予定報告 その後懇親会をいたします。後日再度ご案内をいたします。

宗祖降誕会法要(親鸞聖人お誕生日)

日時 令和元年 5月19日(日曜)

開始 14時～ 『正信偈・和讃』

14時30分頃～ご法話 30分 2席休憩有

講師 小柴隆幸 師 葛飾区 隆照寺住職

(毎年お越しいただいている先生です、関東エリア若手のホープです!)

ご法話終了後、茶話会(お茶菓子は本山御用達の「松風」)

16時頃解散予定

場所 妙蓮寺本堂 駐車場有

江戸川区一之江2-17-5 お問合せ03-6231-4733

※ お焼香を読経中に行っていただきます。

「令和」最初の法要です。皆様どうぞご参拝ください。